

「CSV時代のイノベーション戦略」 (藤井剛)の紹介

2015年5月30日

長谷川 新

自己紹介

2

「関西の底力を結集して世界へ

～イノベーション国際戦略総合特区など

医療・福祉分野での地域活性化の胎動～」

内閣官房地域活性化統合事務局

次長 長谷川 新

〈プロフィール〉

関西特区、「うめきた」都市再生などの支援担当。
バックグラウンドには、EU代表部、総務省総合通信基盤局、国土交通省都市局等でのグローバル競争、地域連携、IT成長分野、法案作成などの経験。阪神高速道路(株)経営企画部長など二度の関西勤務経験をもつ「よそもの」関西ファン/サポーター。他に慶應義塾大学特別招聘講師、旧建設省福祉環境推進室次長など。

〈講演内容〉

目次

- (1) CSVとは
- (2) CSRとCSV
- (3) 新たな勝ちパターンの構築が必要
- (4) CSV×イノベーション経営のスキーム
- (5) CSVの先行事例

(1) CSVとは

- Creating Shared Value (by ポーター)
- 「経済的価値を創造しながら社会的ニーズに対応することで社会的価値をも創造する」という企業価値創造のアプローチをあらわすコンセプト
- 自ら市場創造をリードするイノベーションを仕掛けるための戦略コンセプトとして、新市場・事業創造とコモディティ化に巻き込まれないビジネスモデルを構築

(2) CSRとCSV

- Corporate Social Responsibility
- CSR : 企業が社会の一員として善行、企業戦略とは別、本業とは別予算
- CSV : 経済的価値と社会的価値の同時創造、利益創出の源泉としての活動
- (CSVは、たんなるCSRのソーシャルビジネス化ではない。)

(3) 新たな勝ちパターンの構築が必要

- 従来型勝ちパターン : 改善型技術開発と「カイゼン」の繰返しによる優位構築・継続
- 市場の変化 : 新興国との苦しい競争、コモディティ化
- 新たな勝ちパターンの構築 : 市場の変化をリードするためのCSV×イノベーション

(4) CSV × イノベーション経営のスキーム

1. 社会課題解決を掲げて社内外で高い求心力を得つつ迅速なオープンイノベーション
2. 課題解決に適した新たなルール作りの主導と自社ビジネスモデルへのビルトイン
3. イノベーションエコシステムとしての自社構築

(5) CSVの先行事例

1. GE: 地球環境問題解決を掲げて、環境ビジネス市場拡大とGEの競争優位強化

2002年 環境NGOの指摘で環境対応に転換

2005年 Ecomagination=Ecology+Economy+Imagination

2007年 共同でNGOを作り、政府に勧告(温室効果ガス削減目標、CO2排出権取引の導入)して、新秩序の形成を自らリード

2. ウォールマート: 公民共同のコンソーシアムでサステナビリティ・インデックスを開発して、販売商品の対応比率を2017年までに70%にすると宣言し、買い手交渉力を圧倒的に向上させた。

(5) CSVの先行事例

3. デュポン

1970年代 フロンガス規制に反対しつつ、代替フロン開発を加速
1987年 20の特許獲得後、規制賛成派に転換。NGOと連携して、国際的規制強化を政府に要求。

4. ノボルディスク(デンマーク/製薬)

世界糖尿病財団を複数の異業種パートナーと作って、中国政府との共同プロジェクトを組成(治療ガイドライン、専門クリニック、トレーニング)、投薬市場シェア60%超。さらに他の新興国のルール作りと市場創造へ。

5. ネスレ

ハラールに関しマレーシア政府が進めたルール化(ハラール認証)を後方支援。世界のイスラム市場でトップブランドの地位獲得。

* 最近のイルカ追込漁問題？(繁殖には高価な設備と高度な技術的ノウハウが必要.....)